居住・建築システム技術系の教育訓練目標

居住・建築システム技術系の構成（能開大に設置されている科のみ表記）

居住・建築システム技術系　――――　建築施工システム技術科

■業界に求められる人材像

建築業界における建築生産は、工業化技術の発展や情報化技術などによる技術革新や経済社会、顧客ニーズの変化によって多様化している。

近年、生産年齢人口の減少による労働者不足が大きな課題となる中、生産性の向上や効率化が求められている。

また、カーボンニュートラルへの取り組みが広がる中、建築物の施工や利用における CO2 排出量の占める割合の高さから建築業界におけるカーボンニュートラルへの対応が求められている。

このような状況に対応するため、鋼構造、鉄筋コンクリート構造、木構造等の設計から施工に係る高度な知識、技能・技術を兼ね備えるとともに、BIM などのデジタル技術の活用や環境負荷の低い建築物などにも柔軟に対応でき、リーダーシップ力を持ち合わせた人材が求められている。

■教育訓練目標

建築施工システム技術科では、建築科や住居環境科で身に付けた内容をベースに品質管理(設計図書/仕様 等)、原価管理(数量積算/コストプランニング 等)、工程管理(施工方法/施工手順 等)、安全管理(安全衛生関連法規/作業別安全対策 等)、環境管理(環境負荷抑制/廃棄物リサイクル 等)について専門的かつ応用的な内容を習得する。

さらに建築施工現場を想定したワーキング・グループ学習方式による標準課題実習や開発課題実習に取組むことで、ヒューマンスキル・コンセプチュアルスキル（課題発見・分析能力、計画推進力、組織力）を兼ね備えた建築施工のリーダーとして活躍する人材を育成する。